

人のぬくもりと  
ふれあいが奏でる躍動のまち  
丹波高原文化の郷●京丹波

# 広報 京丹波

KYOTAMBA

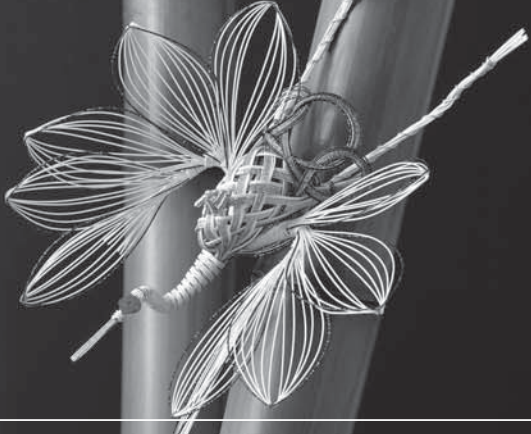
No.63  
1月号  
2011年1月13日発行





新春  
ごあいさつ

# 京丹波町の さらなる飛躍に向けて



今月の表紙

京丹波町の発展と皆様にとって幸多い年であることを願って、干支の「うさぎ」、特産の「小豆」「黒豆」「クリ」を織り交ぜて表紙を飾りました。

## No.63 CONTENTS

- 2 新春ごあいさつ
- 4 '10京丹波の主なできごと
- 5 瑞穂地区の保育所名は「みずほ保育所」に決定
- 6 医療等審議会が答申「町立医療施設は一体的な運営を」
- 7 Dr's Message いきいき健康術
- 8 人の動き
- 9 **FLASH** KYOTAMBA TOWN NEWS 2011

農林水産業発展への功績が評価  
— 農林水産業功労者表彰  
除雪作業で安全な道路環境を  
— 雪かき隊出動式  
文化に親しみ、収穫を喜ぶ地域イベント  
— 質美秋のふれあい祭り  
献血の普及・啓発活動への功績に対し感謝状を贈呈  
— クロイ電機株式会社と上田百合子さんが受賞  
松山公民館館長の前田正さんが受賞  
— 近畿公民館連絡協議会優良職員表彰  
実践訓練で非常時の役割分担を再確認  
— 京丹波町病院が火災想定訓練を実施  
区民総出で豪快に大しめ縄をなう  
— 京都祇園八坂神社本殿の大しめ縄作り  
瑞穂そばの魅力をPR  
— 瑞穂新そばまつり  
かまどを生かして都市農村の素朴な交流を  
— 手づくりかまど竣工イベント  
透明感ある歌声で命の大切さを伝える  
— 人権講演会  
和知小、須知高、京都大が食をテーマに連携  
— パートナースクール事業  
体育協会が5周年を記念して盛大に開催  
— 駅伝競走大会と設立5周年記念式典  
府内最大級のイルミネーションイベント  
— 冬ほたる

京丹波町長 寺尾豊爾



町民の皆様、新年明けましておめでとうございます。

平成二十三年の輝かしい新春をお迎え

に、基礎的自治体の使命である住民福祉の向上に向けて、「安心」「活力」「愛」のあるまちづくりに向けた諸施策をさらに推進してまいります。方針の一端を申し上げます。「安心」のあるまちづくりでは、ひとり暮らし高齢者の増加を踏まえて地域での見守り活動や地域包括ケア体制を確立するとともに、町営バス運行の充実による交通弱者の生活交通確保対策などに積極的に取り組めます。「活力」のあるま

ちづくりでは、重点項目として有害鳥獣対策への積極的な取り組みや京都縦貫自動車道の建設促進および丹波パークキングの整備推進、畑川ダムの事業推進に合わせた企業誘致などによる定住促進対策を推進してまいります。「愛」のあるまちづくりでは、保育サービスの充実などによる少子化対策の推進をはじめ、国民文化祭をはじめとした地域文化の振興や生涯スポーツの推進など、町民交流の活性化に

積極的な対策を講じてまいります。町政運営の基本は、町民の皆様と行政が手を携えたまちづくりであり、今後とも町長と語るつどいなどで積極的な懇談に努める所存ですので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。後になりましたが、今年も、町民の皆様にとりまして幸せ多い年であり、今年も、町民の皆様を心からお祈り申し上げます、新年のごあいさつといたします。

京丹波町議会議長 西山和樹



新年明けましておめでとうございます。

町民の皆様におかれましては、新たな夢と希望に満ちた平成二十三年の輝かしい新春をお迎えになりましたことと存じ上げ、心よりお喜び申し上げます。

また、日ごろは、議会活動に深いご理解とご協力を賜り、誠にありがたく厚くお礼申し上げます。

昨年、わが国経済の景気回復に兆しが見え始めたという報道がされるようになったものの、今もなお地域の産業・経済・社会に大きな影を落としたままであり、わたしたちの生活の中では実感が伴わないまま新年を迎えることとなったことは、誠に残念至極であり、本年こそ、国策によりなお一層の総合的な経済政策が立案実践され、安定した景気の回復が望まれるところであります。

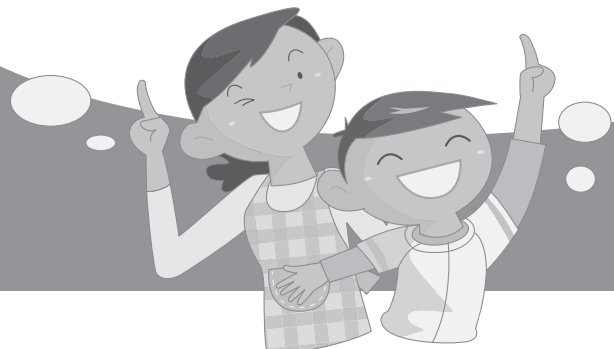
このような中、合併して六回目の新年を迎えた本町におきましても、地方財政は依然と厳しい状況にあります。このよ

うな時だからこそ議会の果たすべき役割をしっかりと自覚認識し、心と力を合わせ精励することがなお一層大切であると存じます。

現在のわが国は、少子高齢化や経済のグローバル化などの進展により、社会経済システムの広範な分野で大転換期の真っただ中にあると思われられます。地方分権が本格的に進展して約十年が経過する昨今、保健・福祉・環境・教育・農林水産業などさまざまな分野で多くの課題はありますが、明るく前向きに知恵を出し合って果敢に挑戦すれば、現下の厳しい状況も必ず克服できるものと確信しております。「人のぬくもりとふれあい」が奏でる躍動のまち、丹波高原文化の郷●京丹波に向け、常に行政とも連携を密にし、町民の皆様とともに希望をもってまい進してまいります。後になりましたが、町民の皆様には、本議会に対し変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。初春にあたり、ご家族ご一緒のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます、年頭のごあいさつといたします。

# 瑞穂地区の保育所名は「みずほ保育所」に決定

瑞穂地区の保育所名は、地域のみなさんの思いや意見を反映するために公募し、(仮称)瑞穂保育所名称選定委員会(委員十五人、以下「委員会」)での選考や町議会での議決を得て、「みずほ保育所」に決定しました。今回、名称の選考経過を詳しくお知らせします。



応募保育所名一覧表(表1)

応募保育所名	
「瑞穂」を含めた名称	すこやか瑞穂
	ばるばる瑞穂
	瑞穂ひまわり
	瑞穂きらり
	瑞穂あゆみ
	瑞穂たけのこ
	瑞穂あすか
	瑞穂かがやき
	瑞穂
	瑞穂みのり
「みずほ」を含めた名称	みずほエンジェル
	みずほすこやか
	わかばみずほ
	みずほスマイル
	つくし保育所みずほ
その他	みずほひまわり
	みずほあおぞら
	つくし
	つくし保育園 松山つくしえん

※上記の応募数はすべて1件です。  
※ほかにも応募数1件の名称が34あります。



平成23年4月の開所に向けて工事が進む「みずほ保育所」(和田)

**▼「みずほ保育所」の命名理由**

- 小学校が瑞穂小学校と決定し、保育所は「みずほ」と幼く、やさしい雰囲気だと思ふから。
- 旧瑞穂町の地名は長い間町民に親しまれてきたので、みずほの名前を残したい。

町は、委員会の確認内容に基づき、同保護者会役員のご協力を得て、会員八十一人を対象にアンケート調査を実施。回答結果は、「みずほ」が二十七件、「みずほあおぞら」が十九件、「みずほひまわり」が十四件となりました。

九月二十九日の第二回会議では、アンケート結果を踏まえて慎重に審議を行い、委員の総意で「みずほ保育所」に決定しました。

保育所名は、町内在住の方を対象に公募し、できるだけ多くの方が応募できるように、町立保育所と役場・支所に応募箱を設置。その結果、郵送を含めて六十五件の応募がありました。

応募結果を見ると、応募数の多い保育所名として、「みずほ」が七件、「ひまわり」と「つづみやま」が二件と続き、ほかにも「瑞穂」や「みずほ」を含めた名称が十七件ありました。(表1参照)

なお、応募数が一番多かった「みずほ」の命名理由の主なものは、次のとおりです。

委員会では、応募いただいた中から保育所名を選考するために、二回の会議を開催。九月十日の第一回会議では、最初に選考方法についての協議が行われ、委員投票で三点の候補を選考した後、松山保育所保護者会の思いを尊重するためにアンケート調査を実施し、再度委員会で審議することを確認。その後、委員投票を行い、「みずほ」「みずほあおぞら」「みずほひまわり」の三点を候補として選びました。

町は、委員会の確認内容に基づき、同保護者会役員のご協力を得て、会員八十一人を対象にアンケート調査を実施。回答結果は、「みずほ」が二十七件、「みずほあおぞら」が十九件、「みずほひまわり」が十四件となりました。

**▼「みずほ保育所」決定の主な意見**

- 子どもが呼びやすく、覚えやすいので、保育所の名称はシンプルなのがよいと思う。
- だれでも読みやすいし、保護者の意見は尊重するべき。
- 「みずほあおぞら」などの場合、略して「みずほ」や「あおぞら」と呼ばれる可能性がある。

## 応募総数六十五件の内、「みずほ保育所」に七件

## アンケート結果を踏まえ委員会でも慎重に審議

なお、第二回会議の主な意見は、次のとおりです。

## 2010年を振り返る Kyotamba

# 10 京丹波の主なできごと



山陰本線複線化開業を祝う「記念式典」。ほかにも、さまざまな記念行事が開催されました。



国民文化祭プレ事業では、和知人形浄瑠璃をはじめ地域に伝わる人形芝居が披露されました。



和知支団第3分団(ポンプ車)と瑞穂支団第2分団(小型)が、府消防操法大会で3位入賞の成績を収めました。



新たな取り組みとして、町民のみなさんと身近に懇談する「町長と語るつどい」を開催しました。



秋の一大イベントとして盛大に開催した「京都丹波ロードレース」。

- 1月
  - 町消防団が出初式を開催(10日)
  - 新成人165人が出席する中、成人式を開催(10日)
- 3月
  - JR山陰本線京都一園部間の完全複線化を祝う開業記念式典が開催される(13日)
  - 瑞穂地区統合小学校の名称が「瑞穂小学校」に決定
  - 都市計画マスタープランを策定
- 4月
  - 町組織の一部を改編(1日)
  - 町営バスの土曜日運行を開始(1日)
  - 住宅用太陽光発電システム設置費の補助制度を開始(1日)
  - 第2回京丹波町観光写真コンクールを実施し、表彰式を開催(16日)
  - ドクターヘリの運行が開始される(17日)
  - 3~4か月児健診と併せて「ブックスタート」を開始
- 5月
  - 丹波自然運動公園の開園40周年を記念して「感謝のつどい」が開催される(5日)
  - みずほ保育所新築工事の起工式を開催(18日)
- 6月
  - 初の区長会全体会を開催(4日)
  - 第2回京丹波町消防操法大会を実施(6日)
  - 「わち西部元気づくり委員会」(24日)、「上和知中部村おこし委員会」(29日)が発足
- 7月
  - 大丹波連携推進協議会が発足(29日)
- 8月
  - 国民文化祭プレ事業「魅せる・人形芝居フェスティバル」を開催(1日)
  - 町消防団が京都府消防操法大会で小型とポンプ車操法の両部門で3位入賞(1日)
  - たんば夏まつり(5日)、みずほ夕涼み大会(8日)、わちふるさと祭り・鉄道開通100周年記念式典(22日)が開催される
  - 町医療等審議会が発足(20日)
- 9月
  - 町長と語るつどいを町内24会場で開催(9月13日~11月13日)
  - 下大久保区と京都学園大学が共援組織「下大久保虹の村づくりの会」を設立(28日)
- 10月
  - 寺尾町長ら28人の訪問使節団がホークスベリー市を祝賀訪問(5日~12日)
  - 町学校給食検討委員会が発足(12日)
  - 全国一斉に国勢調査が実施される
- 11月
  - 町が主催に参画して「京都丹波ロードレース」を開催(3日)
- 12月
  - 琴滝で「冬ほたる」が開催される(10日~24日)
  - 瑞穂地区保育所の名称が「みずほ保育所」に決定

# 「町立医療施設は 一体的な運営を」

京丹波町医療等審議会（波瀬孝澄会長、委員十人）が十二月十四日、喫緊の課題である「京丹波町の医療の確保および町立医療機関のあり方」を私たちの町の私たちの病院を「目指して」について寺尾豊爾町長に答申されました。答申を受けた寺尾町長は、「答申内容を十分に尊重させていただき、町としての方針を早急に決定し、医療の課題解決に向けて全力で取り組んでまいります」と話しました。

## ■医師確保に向けて

医師不足解消のために、京都府立医科大学に常勤医師一名増（内科医師）を引き続き要望していく必要がある。併せて、京都府医師会が実施している医師紹介事業（ドクターバンク）の活用も視野に入れ、府立医大以外からの医師確保も検討していく必要がある。

## ■医療機関体制の見直し

現在、京丹波町病院と同附属質美診療所は地方公営企業法による病院事業、和

知診療所と和知歯科診療所は特別会計で運営されており、各会計とも一定規模の繰入金および負担金に依存した運営状況にある。こうした運営は、町財政にも少なからず影響を与えていることから、現場の意見を尊重しつつ、和知診療所、和知歯科診療所を京丹波町病院と一体的に運営する方向で、運営と経営の効率性を考えた検討をしていく必要がある。

## ■安定した医療体制の確保に向けて

町立医療機関は、京丹波町病院を医療の核とし、外科・内科を中心に二十四時間の救急医療をはじめ、診療可能な急性期対応を推進する一方、同病院二階は急性期並びに維持期の病棟として運営するのが望ましい。

和知診療所は、京丹波町病院と一体化を検討する中で、外来診療を中心にさらに連携を強化するとともに、二階は老健施設を保持し、地域実態を踏まえ一部病床の復活も視野に入れた検討が求められる。民間も含めた町内医療機関において



寺尾町長に答申書を手渡す波瀬会長（役場町長室・蒲生）

は、超高齢社会の進展に合わせ、維持期、療養期を主とした対応をしていく必要がある。なお、急性期医療は積極的に推進するとともに、近隣の公立南丹病院や綾部市立病院などとの連携を深めていくことが必要である。

また、医療の提供には、交通網の整備も欠かすことができない課題のため、高齢者の通院も視野に入れた町営バス路線の変更やダイヤ改正の検討が必要であり、今後の改善が望まれる。

町立医療機関においては、在宅医療サービスの提供をさらに充実させるとともに、積極的に地域に向いて健康教育や健康相談を実施し、病院と患者の互いの信頼関係を構築していき、「私たちの町の私たちの病院」を目指していくことが何よりも大切である。

# 『肺炎にこころ』

このコーナーは、町立病院、診療所の医師や専門職員がみなさんにお届けする健康情報コーナーです。今回の担当は京丹波町病院の放射線技師 山内敏行さん。これからの季節に流行が予想される肺炎の予防についてのお話です。

## 肺

肺炎は風邪をこじらせてなるものだと思っていませんか。もちろん風邪からくる肺炎もありますが、さまざまな要因から起ります。代表的なものには、感染源を吸い込んで発症する「細菌性肺炎」、インフルエンザウイルスなどで発症する「感染性肺炎」、薬剤やアレルギーなどで発症する「非感染性肺炎」などがあります。

## ■肺炎の症状

肺炎とは、肺に炎症が起こった状態のことをいい、症状は風邪と同様に発熱や咳、痰などです。発熱により食欲が低下し、水分が取れなくなると脱水症状を起こすこともあり、重症化すると呼吸困難や意識障害で死亡するおそれもあります。

## ■肺炎の予防方法

- 肺炎予防には、インフルエンザ予防と同様に次のことを心がけてください。
- マスク、手洗い、うがいをしっかりとし、感染源を体内に入れないようにする。
- 規則正しい生活習慣で十分な睡眠をとり、免疫力を高める。



放射線技師 山内敏行さん（京丹波町病院）

- 日光浴や適度な運動を心がける。
  - 栄養バランスの取れた食生活を心がけ誤嚥しないよううゆつくりかんで食べる。
  - 肺を健康に保つために喫煙は控える。
- もし、風邪の症状である発熱や痰がきれいな咳が長期間持続した場合は、重症化する前に医療機関で受診してください。

# いきいき健康術 第41回

Dr's Message

【教育委員】(任期四年)

教育委員長／十倉一昭(安栖里)  
同職務代理者／大西弘二(質美)

【新任】(谷肇(口八田))

【新任】奥田健次(実勢)

【退任】阿部定(委員長、中台)

【固定資産評価審査委員】(任期三年)

【新任】杉本貢(市森)

【退任】(谷肇(口八田))

【人権擁護委員】(任期三年)

【再任】前谷幹夫(下山)

【民生児童委員】(任期三年)

民生委員・児童委員および主任児童委員の一斉改選が十二月一日付で行われ、十二月三日に退任式と委嘱辞令伝達式が町中央公民館で開催されました。担当地区と新委員および退任されたみなさんは次のとおり。

【新委員】

〈丹波地区〉

笹尾・中畑・辻村／横山育子  
中村・鎌倉・下村／小峰喜代子  
西階・水戸／原澤真知子  
新水戸／安井百合子  
須知・市森／奥村益子▼森本昌代  
▼杉本知子  
上野／樹山静代  
蒲生／中村京子  
蒲生野／石田美恵

〈瑞穂地区〉

中台／庄林藤夫  
橋爪／酒井ゆり子  
和田／稲元輝代  
井脇／松野美代子  
大朴／友金一文  
井尻・長谷／平尾春雄  
八田・小野／阪内敏明  
坂井・水原／由良賀代子  
上大久保／稲元茂實  
下大久保／西山美佐  
鎌谷下・東又／太野正平  
鎌谷中／田中強  
鎌谷奥／上田隆  
保井谷・粟野／竹内美代子  
妙楽寺・三ノ宮／花木富美代  
水呑／藤井美代子  
質志・戸津川／東利博

〈和知地区〉

猪鼻／宇野文子  
行仏・中村／三好久男  
庄ノ路・和田・上野／林啓治  
白屋老ノ路・空路／大西晴乘  
中野北久保／的場正  
主任児童委員／大西好美▼上田美恵子  
中山／小林衣江  
升谷／山内康彦  
市場／梅原千代美  
大倉／乾きよの  
篠原／中尾久美子  
大迫／堀鈴代  
長瀬・塩谷／堀利子  
上乙見・下乙見／竹内繁夫  
西河内／井爪仁司  
下栗野／榎本藤雄  
細谷／元井陽一  
上栗野・仏主／三嶋郁夫  
本庄／春田貢▼福井美恵子  
坂原／片山和代  
中／野間智子  
角／松下博幸  
広瀬／樋口由実  
才原／原田芳子  
大簾／才村清治  
広野／片山勝紀  
出野・稲次／下村嘉寿恵  
安栖里／片山良子  
小畑／正田恭丈  
主任児童委員／江本範子▼下村恵子

【退任】

〈丹波地区〉

若松孝子▼小畑みづ子  
船越のな江▼森峯子▼山内和代  
萩野明子▼湊昌平▼長澤玲子  
森田春美▼和久田治野▼近藤春美  
松田八千代▼東良二▼山内建夫  
小森拓実▼谷口敏数▼森田悦子  
熊谷じゅん子▼谷山千榮子

〈瑞穂地区〉

谷垣勇▼津田ふじの▼中村良三  
▼谷垣清治▼畠中千鳥▼上田駿  
▼山下俊子▼竹野美都子▼太田悦子  
▼山内公夫▼上田喜代寛▼谷正昭  
〈和知地区〉  
片山智子▼川邊まき子▼松下久子  
▼寺井温子▼野間まゆみ▼江本博司



委嘱状を受ける主任児童委員の上田美恵子さん(町中央公民館・蒲生)

農 林水産業発展への功績が評価

■農林水産業功労者表彰

十一月二十七日、京都府総合見本市会館で行われた「平成二十二年度京都府農林水産フェスティバル表彰式典」において、農林水産業功労者に表彰状が授与されました。

本町の受賞者は次のみなさん。(敬称略)

▼須知要さん(上野)

自給飼料による低コストな肉用子牛生産や水稲・林業の作業受託による経営の安定を実現するとともに、農業委員や森林組合理



受賞されたみなさん。前列左からふるさと振興センターの堀さん、須知さん夫婦、JA京都の山内さん、岡本さん(京都府総合見本市会館・京都市内)

事を歴任し、指導農業士として地域農業の指導的役割を担うなど、農業の振興と発展に貢献。

▼岡本謙次さん(蒲生)

多年にわたり、丹波町土地改良区の役員を務め、組織の健全運営や農業基盤整備事業を推進するとともに、農業委員としても優良

農地の確保と効率利用に尽力するなど、団体の発展と農業の振興・発展に貢献。

▼(財)和知ふるさと振興センター

地域農業の中核として堆肥散布や水稲生産の基幹作業を受託するとともに、道の駅「和」やわち山野草の森、わちふれあい朝市を運営し地域の活性化に寄与するなど、活動を通じ農業の振興と発展に貢献。

▼JA京都瑞穂支店小豆部会

地域独自の高品質な小豆の品種である「瑞穂大納言」の栽培技術研修会の開催などによる生産拡大や、老舗和菓子店への宣伝活動などに取り組みなど、活動を通じ農業の振興と発展に貢献。

除 雪作業で安全な道路環境を

■雪かき隊出動式

「雪かき隊」の出動式が十二月一



除雪機械を見学する児童たち(道の駅「和」・坂原)

日道の駅「和」第二駐車場で行われ、関係者ら約八十人が参加しました。出動式は、除雪作業に携わる建設業者などを激励することを目的に、除雪期間(十二月一日～三月十五日)の開始日に合わせて毎年実施。今回は、和知小学校の四年生十九人が激励に訪れ、児童代表の藤村美月さんが「厳しい寒さの中での除雪作業は、危険だし、苦労もあると思いますが、地域のみなさんは助かって

います。この冬も健康に十分気を付けて、地域のために活躍してください」と激励の言葉を述べました。激励を受けて、町建設業協会会長野口芳彦さんは、「道路を安全に利用してもらうためにがんばって除雪作業を行います。除雪車を見かけたら、安全確保のために少し離れて見守ってください」と決意表明をしました。その後、児童たちは、府職員から除雪車の説明を受けたり、展示された大型車両への乗車体験などを行い、除雪に対する理解を深めていました。

文 化に親しみ、収穫を喜ぶ地域イベント

■質美秋のふれあい祭り

第二回質美秋のふれあい祭り(同実行委員会主催)が十二月二十八日、質美振興センターで行われ、多くの地域住民らでにぎわいました。

同祭りは、地域住民が交流を深めながら、秋を強めることを目的に、実りの秋を喜ぶ「収穫祭」と、日ごろの活動の成果などを発表する「文化祭」の二つの要素を織り交ぜて実施。この日は、書道や絵画などの作品展をはじめ、農林産物品評会、家庭で作った加工食品の展示、ジャンボかぼちゃ重さ当てクイズ、菊花展、フリーマーケット、模擬店などの多彩な催しが行われ、参加者は出展作品を興味深く見入ったり、地元産物を使った料理などを味わったりして楽しんでいました。



思い出の卒業写真を見つめる参加者(質美振興センター・質美)



そば打ちの実演を見学する参加者  
(瑞穂そば体験道場(旧梅田保育所)・梅田)

この日は、開店から多くの人が詰め掛け、昼過ぎには完売が続出するほどの大盛況となりました。

**瑞穂そばの魅力**  
瑞穂新そばまつり(京都瑞穂そば振興会主催)が十二月十九日、瑞穂そば体験道場で開催されました。この催しは、瑞穂そばの生産や加工、販売に関する有志で組織する同振興会が、新そばの収穫を祝うとともに瑞穂そばを広く知ってもらうことを目的に、初の試みとして実施。会場では、新そばを使った手打ちそば、そば、そばパンなどの販売をはじめ、そば打ちの実演や体験などが行われ、訪れた人たちは地元産のそば粉を使った料理に舌鼓を打ち、体験などを通じて瑞穂そばの魅力を満喫しました。

**瑞穂新そばまつり**

瑞穂新そばまつり

**人権講演会**  
平成二十二年度京丹波町人権講演会(町・町教育委員会・町人権啓発推進協議会主催)が十二月二十七日、和知ふれあいセンターで開催され、約百五十人が参加しました。同講演会は、町民のみならず人権の大切さを伝えることを目的に毎年実施。今回は、シンガーソングライター野田淳子さんが「みんなちがって、みんないい」をテーマに講演し、生きているすべての命の大切さを、ギターで弾き語りして透明感のある歌声で参加者に伝えました。

**透**

**明感ある歌声で命の大切さを伝える**



ギターの弾き語りを交えて講演する野田さん(和知ふれあいセンター・本庄)

また、十二月六日には、人権週間(十二月四日―十日)の取り組みの一環として、道の駅など五か所街頭啓発が行われ、人権擁護委員や人権啓発推進協議会の委員ら約三十人が、基本的な人権の尊重と人権問題への理解を呼びかけました。

**わたしたちの町**

人口	16,641(-17)
男	7,864(-1)
女	8,777(-16)
世帯数	6,444(-7)
1月1日現在 / ( )は前月比	



街頭啓発で人権の大切さを呼びかける関係者(丹波マーズ・須知)

**か**

まどを生かして

都市農村の素朴な交流を

**手づくりかまど竣工イベント**  
「和知の村で一日ふるさと体験」手づくりかまど竣工式(「NPO法人京都もやいなおしの会主催」)が十二月五日、和知青少年山の家で行われ、地元住民や観光客ら約百二十人が参加しました。この取り組みは、山の管理者の川崎良樹さんが「火のあるところに人が集まる」と発案したことをきっかけに、京都府職員を中心に地域再生のきっかけづくりを担う同会が、

過疎の進む上粟野区に人を呼び込みたいとの思いから、約一年をかけて手づくりかまどを製作。今回、かまどの完成を祝うために、大阪市や京都市などから観光客を受け入れて、盛大に竣工イベントを開催しました。竣工式では、かまどの火入れが行われた後、かまどで炊いた地元の新しい米が振る舞われ、参加者らは昔懐かしい味を堪能していました。また、この日は、もちつき交流会をはじめ、地元農産物の直売、地元産のアーユルハーブやインシシカ汁の販売、



かまどで炊いたご飯を振る舞う地元住民ら(和知青少年山の家・上粟野)

しめ縄づくり体験など、多彩な催しが行われました。共催として関わった上粟野区の梅原昇治区長は、「このかまどをきっかけに、都市と上粟野の素朴で継続的な交流につなげたい」と話しました。

**松**

山公民館長の

前田正さんが受賞



近畿公民館連絡協議会優良職員表彰を受けた前田さん

近畿公民館連絡協議会優良職員表彰

このほど、松山公民館長の前田正さん(八田)が、近畿公民館連絡協議会優良職員表彰を受賞しました。前田さんは、平成十二年四月に瑞穂町中央公民館(現松山公民館)の館長に任命されて以来、十年以上にわたり松山地区住民の信頼に応えたさまざまな事業を展開するとともに、平成十五年十六年度には船井郡公民館連絡協議会会長と京都府公民館連絡協議会評議員を務め、公民館事業の円滑な推進に尽力されてきた功績が認められての受賞です。おめでとうございます。

**区**

民総出で豪快に大しめ縄をなう

京都祇園八坂神社本殿の大しめ縄作り



力を合わせて豪快に大しめ縄をなう区民(尾長野地内)

十二月十九日、恒例の「大しめ縄作り」が尾長野区で行われました。この行事は、京都祇園八坂神社の分社が同区内にあり、毎年五月末にお田植え祭(御田祭)が開催されることから、その田で取れたわらを使って区民総出でしめ縄を作り、同神社へ奉納する地域の伝統行事。参加した区民は、直径約六十センチ、長さ三・五メートルの大しめ縄など計十三本

を、かけ声に合わせて豪快に作り上げていきました。なお、完成したしめ縄は、同月二十三日に奉納し、同神社の本殿などで飾られました。

**献**

血の普及・啓発活動への功績に対し感謝状を贈呈

クロイ電機株式会社と  
上田百合子さんが受賞



感謝状を受けたクロイ電機株式会社の黒井剛代表取締役社長



感謝状を受けた上田さん

このほど、クロイ電機株式会社が厚生労働大臣と日本赤十字社から、上田百合子さん(曾根)が日本赤十字社京都府支部長からそれぞれ感謝状を受けられました。

同会社は、昭和五十三年から企業全体で献血に協力し、平成十二年に日本赤十字社金色彩有功賞を受賞。多年にわたり献血に取り組み続けてきた功績に対し感謝状が贈られました。

また、上田さんは、平成十二年一月に献血(個人)ボランティアに登録し、町内の献血会場で受付事務や協力への呼びかけ活動などを実施。多年にわたり赤十字活動に貢献されてきた功績に対し感謝状が贈られました。おめでとうございます。

**実**

践訓練で非常時の役割分担を再確認

京丹波町病院が火災想定訓練を実施



患者を避難させる職員(京丹波町病院・和田)

京丹波町病院が十二月八日、京都中部広域消防組合と合同で「火災想定訓練」を行いました。同訓練は、非常時の行動マニュアルとなる「消防計画」に基づき、いざという時に機敏な対応ができる組織体制の確認と消防署との迅速な連携を目的に実施。この日は、一階の機械室から出火したとの想定の下、一一九番通報と院内放送を皮切りに、消火器や消火栓を使った初期消火、患者の避難誘導、応急救護、救護用テントの設置、はしご車による人が救助など、本番さながらの訓練が行われました。

訓練終了後には、園部消防署の西田均署長が「災害が発生すれば、患者の安全を第一に考えて組織一丸となつて対応いただけるよう、本日の訓練を生かした行動をしてください」と講評されました。



一斉にスタートを  
する第一走者  
(ふれあい広場・和田)

## 体育協会が五周年を記念して盛大に開催

### ■駅伝競走大会と設立五周年記念式典

第六回京丹波町駅伝競走大会  
(町体育協会主催)  
が十二月十二日、和田地区のふれあい広場を発着点とした松山商店街周回コースで行われ、スポーツ少年団や中学・高校のクラブ員などで構成された

計四十三チーム(三百二十七人)が参加。出場選手たちは、沿道からの熱い声援を受けながら、チームの勝利を目指し、気合の入った走りを見せていました。  
また、大会終了後、同協会は山村開発センターで、設立五周年記念式典を開催。式典で中野昭会長は、「五周年を契機として体育協会がさらなる飛躍を遂げるよう、関係各位と協力し、町のスポーツ振興に取り組みでいきます」とあいさつし

## 和知小、須知高、京都大が食をテーマに連携

### ■パートナーズスクール事業

食をテーマに和知小学校と須知高校、京都大学が連携する「パートナーズスクール事業」がスタートし、十一月三十日に須知高校で二回目の取り組みが行われました。

同事業は、学校間の垣根を超えて連携する中で、それぞれが持つ知識や技術を生かし、学び合うことを目的に、年度内に計三回の予定で実施。今回は、和知小の五年生三十九人と須知高食品科学科の生徒十人、京都大の大学院生ら六人が参加し、「ソーセージづくりから知恵と技と



ソーセージの作り方を教わる児童たち  
(須知高校・曾根)

心を学ぶ」をテーマに、須知高生の指導によるソーセージづくりと試食、京大生による「ソーセージの秘密」と題した講義などが行われ、それぞれが専門分野の知識を伝えながら、交流を深めていました。  
参加した和知小の児童たちは、「初めて作ったソーセージはとてもおいしかった」「腸詰めの際に破れなくて良かった」などと感想を話しました。

## 府内最大級のイルミネーションイベント

### ■冬ほたる

十二月十日―二十四日の期間、京丹波町の冬を彩る名勝・琴滝を舞台にしたイルミネーションイベント「冬ほたる二〇一〇」(NPO法人丹波みらい研究会主催)が開催され、期間中を通じて多くの人でにぎわいました。

今回は、発光ダイオード(LED)を五十五万個に増やし、府内最大級のイルミネーションイベントとして開催。会場では、高さ四十三層の一枚岩を流れ落ちる滝に琴の弦をイメージした巨大な光のオブジェ



小川の清流をイメージした全長200mの光のオブジェ

や光の回廊などが設置され幻想的な空間を醸し出していました。  
また、二十二日と二十三日には、オカリナのライブや瑞穂鼓太鼓の公演などが行われ、訪れた人々を楽しませました。



冬ほたるの象徴である琴滝に施されたイルミネーション装飾(琴滝・市森)

## 編集後記

新年を迎え、広報編集は「固定観念に捉われず、親しみやすく読みやすい紙面に心がける」を目標に、これからも精一杯努力していきます。また、子どもを見ていると、ハイハイが出来るようになって喜んでいたり、伝い歩きから一人歩きが出来るようになり日々成長を重ねています。童心に戻って改めて物事を見つめ直す中で、共に成長し合えるよう努めていきたいと思ひます。(K)